

WHAT

ニュージーランド・オタゴ大学

文教育学部 言語文化学科
英語圏言語文化コース 3年
進藤美沙

私が交換留学への応募を考えたきっかけは、1年生の春休みに参加したオタゴ大学での短期語学研修です。日本とは全く違う海外の大学の様子を知り、日本の大学では得られない経験をしてみたいという思いから実際に大学に通うことのできる交換留学に興味を持ちました。オタゴ大学に戻ろうと思ったのは、ニュージーランドののんびりとした雰囲気が自分に合っており長期留学に向いていると考えたのと、留学生でも履修できる授業が多くあるからです。

授業が始まる前には留学生向けのオリエンテーションに参加したり、メンター（留学生の勉強や生活をサポートしてくれる）の方に履修登録などについて相談したりしました。留学生が多いためか、受け入れ体制はしっかりしていました。

ホームステイと語学学校がメインの語学研修とはまるきり違い、今回の留学では現地学生と一緒に寮生活を送り、大学の授業を受けました。どの授業も講義とディスカッション中心のチュートリアルからなります。語学学校の授業を見学し、実際に英語の授業をおこなうという実践的な科目もありました。課題は予習などに加え、エッセイや発表が学期に3回ほどありました。課題をこなすには授業内容の理解・応用が求められ、使用言語が英語なのもあって毎回かなり時間をかけました。定期試験はどれも2~3時間でエッセイ2~4本を書くという重いもので、試験期間はみんな人が変わったように勉強していました。大変でしたが、授業や課題の内容は学生に力をつけさせるようにとても考えられたもので、教授の熱意が伝わってきました。この10カ月は間違いなく大学生活で一番勉強した期間だと思います。

励ましあって勉強したり、書いたエッセイをチェックしてもらったりしたのが寮の友達でした。ニュージーランド人中心の寮に入ったため、疎外感を感じないか不安でしたが、気さくな人ばかりで3食をともにしているうちに自然と仲良くなりました。日本人の留学生とは悩みを共有し、励ましあっていました。同じ立場にいても留学目的・考え方は様々です。留学先で日本人と交流することにはマイナスのイメージもありましたが、彼らから受けた刺激はとて大きかったです。長期休みにはいろいろなところに旅行することができました。現地のガイドさん、世界中から来る旅行者など、旅先でもたくさんの出会いがあります。

今回の留学の一番の目標は英語力の向上、そして興味のある英語教育についての知識・理解を深めるというものでした。しかし、実際に得たものはこれだけにとどまらず、人間的にも大きく成長することができました。行ったのはニュージーランドですが、世界中の人に会えたような気分です。私を成長させてくれたこれらの出会いに感謝しています。

